

CVケーブル更新のお願い

～自家用電気工作物設置者の皆様へ～

近年、社会生活の安全・安心の確保に対する関心が高まっており、社会インフラ設備の安全性と信頼性の確保が重要となっております。とりわけ、自家用電気工作物の事故等による波及事故は、周辺一帯の電力システムを停止させ、多くの需要家に被害を与え、多額の損害を与えるケースのある社会的影響の大きいものです。近年の波及事故の原因の多くはCVケーブルの破損等によるものです。中でもCVケーブルの経年劣化（水トリ一現象が確認されたものも含む）に因る事故が最近の波及事故の約4割を占めています。現在多く使用されているCVケーブルは、長期間使用すると経年劣化により破損するリスクが高くなりますので、長期間使用されているCVケーブルを早急に更新することは、電気事故の防止対策として非常に効果的です。つきましては、当該ケーブルの更新にご理解とご協力をお願い申し上げます。

1 近年の波及事故件数とその原因

表1は平成18年度から24年度までの7年間において、電気関係報告規則に基づいて、関東東北産業保安監督部に報告された波及事故の内訳について示したものです。近年は、引込ケーブルが波及事故全体の約4割を占めています。次に、引込ケーブルの事故を原因別に示したものがグラフ1で、自然劣化が圧倒的に多く約8割を占めています。

表1 年度別の波及事故件数

年 度	事故件数	引込ケーブル	
		件 数	(%)
平成18年度	140	49	35
平成19年度	129	37	29
平成20年度	166	48	29
平成21年度	110	58	53
平成22年度	148	63	43
平成23年度	111	48	43
平成24年度	133	74	56
年間平均	134	54	40

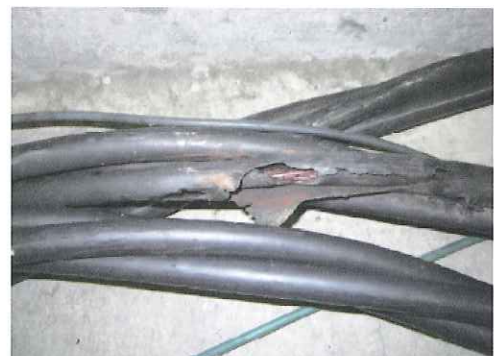
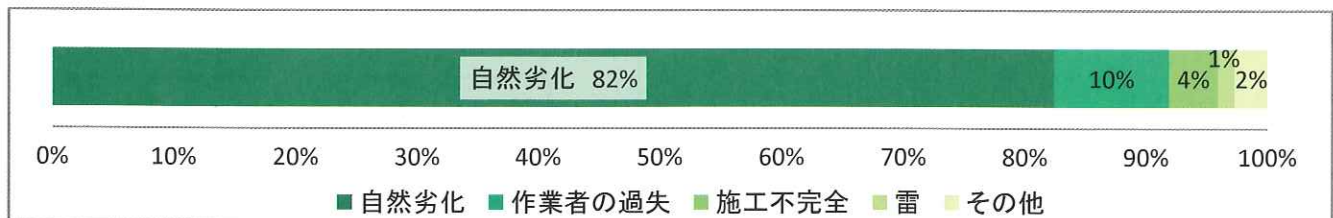


写真1 絶縁破壊したケーブル



グラフ1 引込ケーブルの事故原因 (H24年度)

2 引込ケーブルの経年による自然劣化事故件数

表1の引込ケーブルの事故に因る波及事故のうち自然劣化によるものをケーブル製造後の経過年数別に事故件数を表したものがグラフ2です。グラフ2に因ると、製造後15年以上経過すると事故が発生し、20年を経年した以降で事故の件数が大幅に増加する傾向にあります。グラフ3は構成比率を示したもので、20年超過のケーブルで当該事故の約90%を占めています。